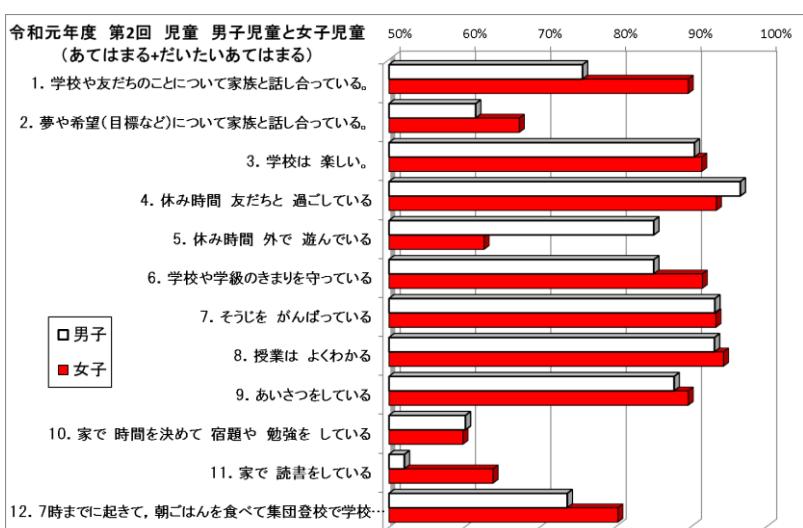
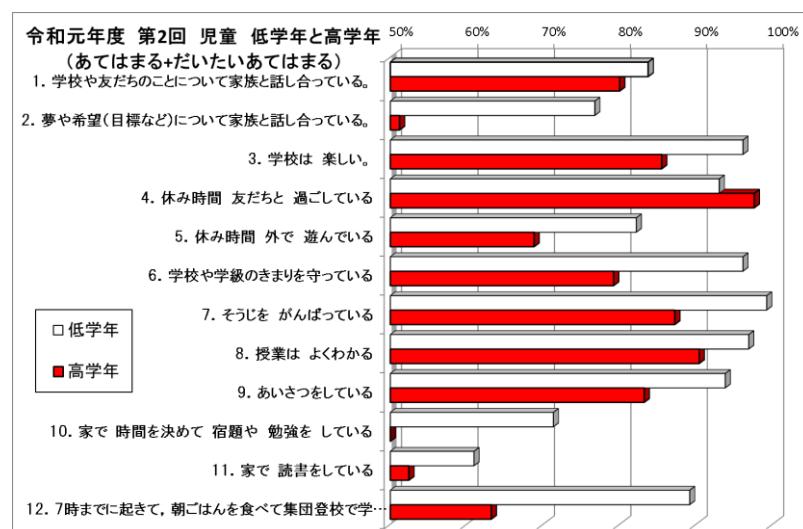
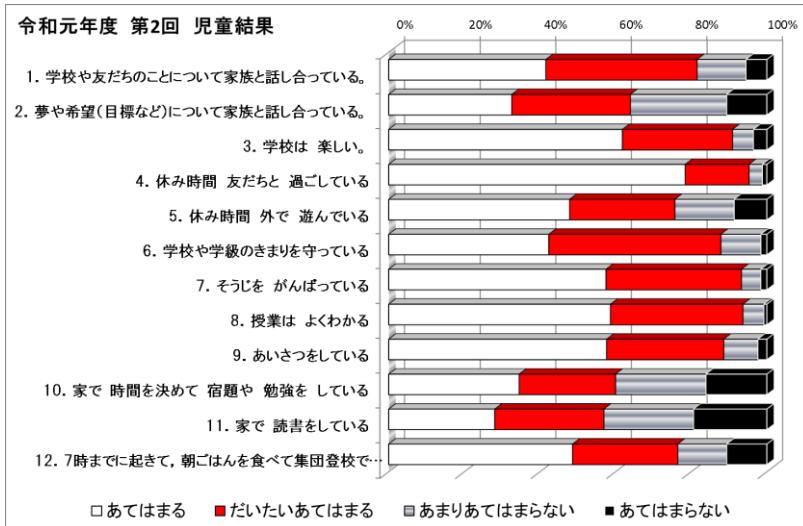


光徳だより 令和元年度 第2回 学校評価号

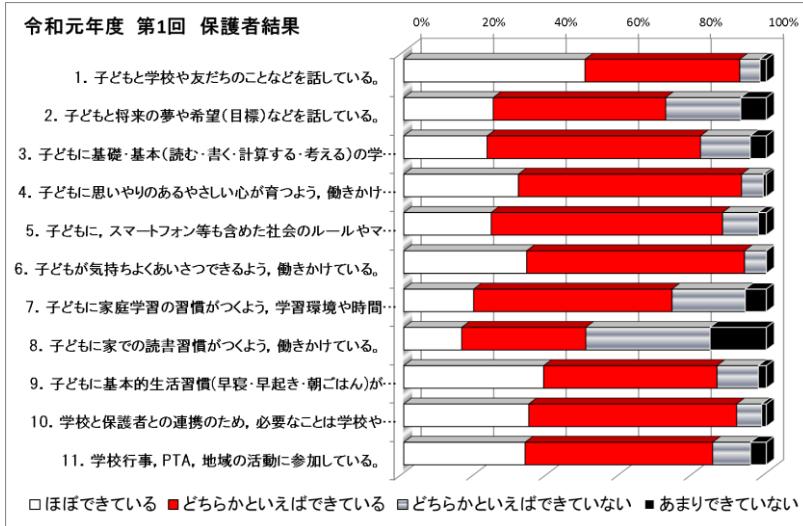


令和2年3月発行 京都市立光徳小学校 校長 岩岡洋史

(1) 児童の結果より



(2) 保護者の結果より



①1~12の項目を比べて（左図）

90%以上ある項目は、「3. 学校は楽しい」91%, 「4. 休み時間友だちと」95%, 「7. そうじ」93%, 「8. 授業がわかる」94%, です。80%台は「1. 学校のことを話す」82%, 「6. きまりや約束」88%, 「9. あいさつ」89%, 「12. 集団登校」85%です。

それ以下になると、「2. 夢や希望を話す」64%, 「5. 休み時間の外遊び」76%, 「10. 家庭学習」60%, 「11. 家庭読書」57%となっています。

令和元年度前期と比べ 5%以上変化しているのが、「11. 家庭読書」-5%, 「12. 集団登校」-8%です。その他は大きく変化はありません。

前回 8%増加した「12. 集団登校」は 8%減少となりました。また、前回 6%減少した「10. 家庭学習」の 2%の減少となり、減少が続いているです。

②低学年児童と高学年児童を比べて（上図）

低学年児童と高学年児童を比べ大きく差があるのが、「2. 夢や希望を話す」の 26%と「12. 集団登校」の 26%（前回 5%）、「10. 家庭学習」23%（前回 11%）、「6. きまりや約束」17%で、すべて低学年児童が多くなっています。「12. 集団登校」や「10. 家庭学習」で差が大きく広がっていることから、高学年児童の家庭での生活が不十分になっている傾向にあります。

比較的差があるのは、「3. 学校は楽しい」「6. 休み時間の外遊び」「7. そうじ」11~13%で、こちらもすべて低学年児童が多くなっています。

その他は、4%~9%の差で、「4. 休み時間友だちと」以外はすべて低学年児童が多くなっています。

③男子児童と女子児童を比べて（上図）

男子児童と女子児童を比べ特に大きく差があるのが、「6. 休み時間の外遊び」で、前回 30%男子児童が多くなっていましたが、今回は 23%となり、外遊びする女子児童が増えてきているという状況です。

比較的差があるのが、「1. 学校のことを話す」14%, 「11. 家庭読書」12%（前回 4%）で、どちらも女子児童が多くなっており、女子児童の家庭読書が増える傾向にあります。

前回女子児童が男子児童より 13%多かった「2. 夢や希望を話す」は、6%に減りました。

その他は、2~7%の差です。②の結果と合わせると、前回と同様、外遊びしない児童は、高学年の女子児童に多いですが、減る傾向にあります。

①1~11の項目を比べて

90%以上ある項目は「1. 子どもと学校のことを話している」92%, 「4. 思いやりのある心」94%, 「6. あいさつ」92%, 「10. 担任・学校との連携」93%, 80%台の「3. 学力定着」81%, 「5. 社会のルールやマナー」87%, 「8. 基本的生活習慣」84%, 「10. PTA や地域の活動」85%です。

それ以下になると、「2. 夢や希望を話す」74%, 「6. 家庭学習習慣」71%, 「7. 家庭読書習慣」50%となっています。

また、どの項目も前回と大きな変化はありません。

②低学年児童保護者と高学年児童保護者を比べて

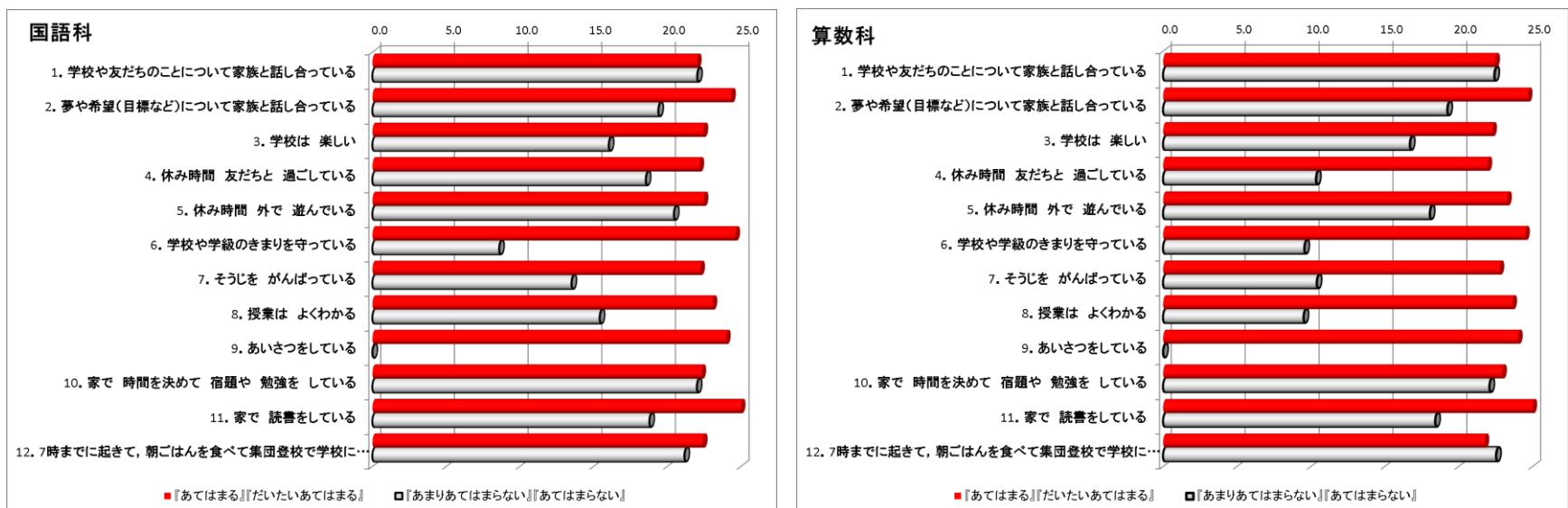
5%以上差があるのは、「1. 子どもと学校のことを話している」11%（前回1%）、「3.学力定着」8%（前回10%）、「4.社会のルールやマナー」-8%（前回-10%）、「6.家庭学習習慣」10%（前回8%）で、低学年から見た結果です。

ただ、「2. 夢や希望を話す」に関して前回-8%が3%となっており、児童と保護者の回答は一致しています。この項目だけが大きく変化していますが、その他の項目は前回と同様の傾向を見せてています。

のことから、前回に続き、保護者の皆様がお子様と「学校のこと」「思いやり」「あいさつ」を話題にして親子の対話を進められていることはすばらしいことだと考えております。また、「担任・学校との連携」をしていただいていることもありがたいことだと思っております。

しかし、児童の課題として挙げられた家庭学習習慣、家庭読書習慣の定着に向けた保護者の皆様のさらなるご協力ををお願いしたいと思っております。

(3) ジョイント・プレジョイントプログラム確認テスト結果と学校評価選択項目の比較



上記のグラフは、ジョイント・プレジョイントプログラム確認テスト結果と学校評価選択項目の『あてはまる』『だいたいあてはまる』と『あまりあてはまらない』『あてはまらない』の選択を比較したものです。

これから、国語科も算数科も「11.家庭読書」、「6.きまりや約束」、「2.夢や希望を話す」、「9.あいさつ」の『あてはまる』『だいたいあてはまる』を選択した児童の学力が高いことが分かります。全体的にも、『あてはまる』『だいたいあてはまる』を選択している児童の学力が高い傾向にあります。

逆に、「9.あいさつ」、「6.きまりや約束」、「7.そうじ」の『あまりあてはまらない』『あてはまらない』を選択した児童の学力ポイントから、『あいさつをする』『きまりや約束を守る』『そうじをする』できることが学力に影響していると考えられます。

その中でも、「9.あいさつ」・「6.きまりや約束」は、『あてはまる』『だいたいあてはまる』と『あまりあてはまらない』『あてはまらない』の差が大きく、社会的なマナーやきまりを守ることがより学力に影響しているとも考えられます。

(3) 本校として取り組むこと

以上の結果から、子どもたちの学力向上には、教職員が日々の授業をより良くしていく授業改善と家庭学習との連動が大切だと言われています。教職員は家庭学習習慣定着のための適切な課題の選定だけでなく、家庭学習の意義も引き継ぎ指導していきます。

保護者の皆様には、家庭学習のスケジュールを決めたり、学習時間にはテレビを消したり、ケータイ等の操作を止めたりする等、家庭学習の習慣が身につきやすくなるよう家庭環境を整えていただきますようご協力をお願いいたします。

なお、児童の回答とプレジョイントプログラム・ジョイントプログラムの結果を分析してみると、特に「あいさつをする」「きまりを守る」「そうじをする」など各項目で「あてはまる」「だいたいあてはまる」を選択している児童は国語・算数の結果が良好だけでなく、「あいさつをする」「きまりを守る」ができない児童はできる児童に比べより差があるという結果が出ています。

のことから学力向上には、『心を育てる』ことも大切な要因ではないかということも考えられます。そのためにも、本校が研究教科として取り組んでいる「道徳科」をさらに充実させ、子どもの心を育てていくことにもより大切にしていきたいと思っています。

(4) 学校運営協議会 学校評価推進委員会の皆様のご意見等

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月5日（木）に予定していた学校運営協議会学校評価推進委員会の開催が中止となり、委員会の皆様のご意見を伺うことができなくなつたため、今回は載せていません。

ご了承をお願いいたします。